

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患克服研究事業））
分担研究報告書

進行性骨化性線維異形成症 (FOP) における開口障害と口腔ケアに関する研究

研究分担者 須佐美 隆史 東京大学顎口腔外科・歯科矯正歯科准教授
研究協力者 森 良之 東京大学顎口腔外科・歯科矯正歯科准教授
松川紗都 東京大学顎口腔外科・歯科矯正歯科
有村奈己 東京大学顎口腔外科・歯科矯正歯科
岸本奈月 東京大学顎口腔外科・歯科矯正歯科

研究要旨 進行性骨化性線維異形成症 (FOP) 患者における開口障害と口腔ケアの実態を把握し、データベース化することを目的に、質問票による多施設共同研究を企画した。質問票は、開口障害、口腔疾患（う蝕、歯周病、不正咬合、顎関節症など）、摂食方法、口腔ケア方法、歯科治療に関しての 16 項目からなる。現在、これを用いて全身症状と合わせた多施設共同研究を遂行中である。

A. 研究目的

進行性骨化性線維異形成症 (FOP) の患者では、顎骨周囲軟組織の異所性骨化による開口障害が高頻度で出現する。しかし、日本人における開口障害の実態や、その対処法についての情報はほとんど得られていない。本研究は、わが国における患者の実態を明らかにし、摂食、口腔ケア、歯科治療といった口腔機能と密接に関係する問題についての情報を集めデータベース化することにより、患者の ADL・QOL 向上を図るための基本情報を得ることを目的とする。

B. 研究方法

FOP 研究班員において管理されている日本全国の FOP 患者を対象とし、患者／家族に対する質問票により情報を集める。質問は脊椎、手足など、他の全身的な問題に関するものと併せて行う。

(倫理面での配慮)

東京大学大学院医学系研究科・医学部研究倫理委員会の承認のもと行い、回答者からは同意書を得る。

C. 研究結果

研究遂行にあたり作成した口腔に関する質問表は、開口障害、口腔疾患（う蝕、歯周病、不正咬合、顎関節症など）、摂食方法、口腔ケア方法、歯科治療に関しての 16 項目とした。回答方法は選択方式を軸に、自由回答も可能な形式とした。本質問票について FOP 研究班会議において班員の合意が得られたので、現在、質問票送付作業に着手しているところである。

D. 考察

昨年度までの本研究では、まず東大病院に通院する患者について、FOP 患者の口腔症状やその治療法について調べ、報告した。しかし、患者／家族から受ける口腔症状の進行、症状予防のための口腔ケアに関する相談に、明快に回答するには不十分であっ

た。従って、本研究を通じた日本における FOP 患者の実態の把握が急務と考えている。

E. 結論

本研究結果は、患者相談・指導を通じ、FOP 患者の口腔に関する ADL・QOL の向上に大きく役立つと思われる。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

未発表

2. 学会発表

未発表

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし